

## 2011年度第3四半期 決算説明追加資料 【通期業績予想修正関係】

2012年2月13日(月)

MS&amp;AD Insurance Group Holdings, Inc.

MS&amp;ADインシュアランスグループホールディングス株式会社

### 追加資料1 2011年度(通期)連結業績予想 (2012.2.13修正後)

タイ洪水および法人税率の引下げ等の影響を主因として業績予想を下方修正。  
期末配当(予想)を据置き、安定配当を堅持。

#### 2011年度(通期)連結業績予想

経常収益	38,500 億円
経常利益	△ 800 億円
当期純利益	△ 1,450 億円
1株当たり配当(予想)	年 54 円

#### 【参考】

##### ■三井住友海上 2011年度(通期)単体 業績予想

正味収入保険料	12,590 億円
経常利益	△ 550 億円
当期純利益	△ 680 億円

##### ■あいおいニッセイ同和損保 2011年度(通期)単体 業績予想

正味収入保険料	10,840 億円
経常利益	20 億円
当期純利益	△ 480 億円

## 追加資料2 2011年度(通期)連結業績予想 前回予想との比較

(億円)

	2010年度 実績①	2011年度 (前回予想)②	2011年度 (今回予想)③	修正幅 ③-②	前期比増減 ③-①
経常収益	34,049	39,000	38,500	△ 500	+ 4,450
正味収入保険料	25,414	25,620	25,620	-	+ 205
生命保険料	2,445	4,103	4,103	-	+ 1,657
経常利益	210	240	△ 800	△ 1,040	△ 1,010
三井住友海上	317	280	△ 550	△ 830	△ 867
あいおいニッセイ同和損保	160	110	20	△ 90	△ 140
三井ダイレクト損保	3	2	2	-	△ 1
三井住友海上あいおい生命	△ 10	△ 32	△ 32	-	△ 21
三井住友海上プライマリー生命	93	114	114	-	+ 20
海外保険子会社	80	86	△ 29	△ 115	△ 109
その他・連結調整等	△ 436	△ 320	△ 325	△ 5	+ 111
当期純利益	54	60	△ 1,450	△ 1,510	△ 1,504
三井住友海上	228	180	△ 680	△ 860	△ 908
あいおいニッセイ同和損保	△ 114	120	△ 480	△ 600	△ 365
三井ダイレクト損保	2	1	1	-	△ 1
三井住友海上あいおい生命	△ 71	△ 90	△ 115	△ 25	△ 43
三井住友海上プライマリー生命	93	68	53	△ 15	△ 40
海外保険子会社	45	30	△ 50	△ 80	△ 95
その他・連結調整等	△ 129	△ 249	△ 179	+ 70	△ 49

\* 子会社の当期純利益は、出資持分ベース

MS&ADホールディングス 2

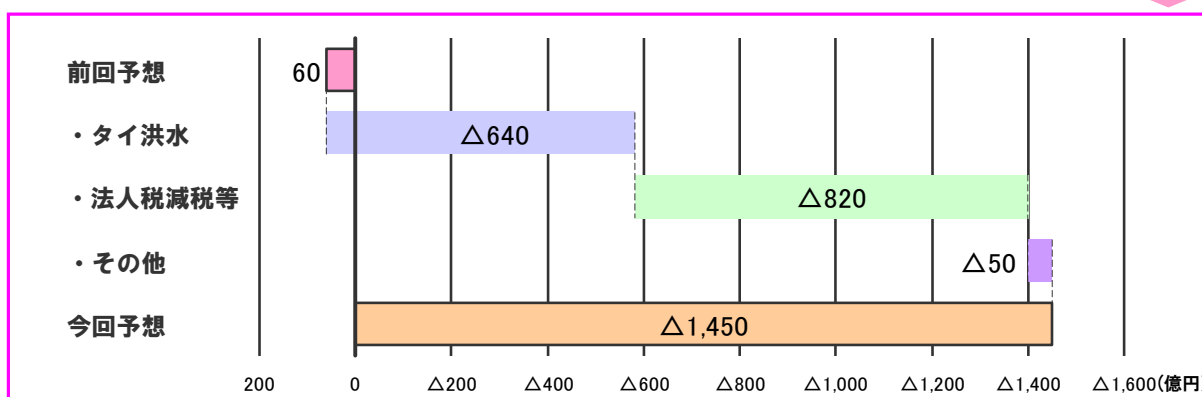
## 追加資料3 2011年度(通期)連結業績予想 修正の主な要因と影響額

(億円)

	連結経常利益			連結当期純利益		
	前回予想 (a)	今回予想 (b)	(b)-(a)	前回予想 (c)	今回予想 (d)	(d)-(c)
タイ洪水 <sup>※1</sup>	△ 220	△ 1,240	△ 1,020	△ 150	△ 790	△ 640
法人税減税等 <sup>※2</sup>	-	160	+ 160	-	△ 820	△ 820
その他	-	△ 180	△ 180	-	△ 50	△ 50
合計			△ 1,040			△ 1,510

※1 タイ洪水 : 保険金支払いに伴う異常危険準備金の取り崩し後の見込額

※2 法人税減税等 : 有価証券評価損等に係る繰延税金資産の評価性引当額の増加見直しを含めた金額。  
(当期純利益への影響額 約△260億円「追加資料5」参照)



■なお、統合リスク管理上の「時価純資産」-「統合リスク量」は 5,500億円を超えるレベルにある。

(上記「タイ洪水」や「法人税減税等」その他の影響見込勘案後。一定の前提を置いた簡易計測による直近の試算値(2012年1月末現在)。)

MS&ADホールディングス 3

正味発生損害額見込は2,360億円

(億円)

	発生損害額見込			当期中の支払見込			当期経常利益影響額見込		
	前回	今回	増減	前回	今回	増減	前回	今回	増減
三井住友海上	1,200	1,940	+740	1,010	970	△40	170	970	+800
あいおいニッセイ同和損保	100	345	+245	50	170	+120	50	195	+145
海外保険子会社		75	+75					75	+75
合計	1,300	2,360	+1,060	1,060	1,140	+80	220	1,240	+1,020

発生損害額見込の増加要因

保険金支払の状況

発生損害見込の増加

損害範囲(地域)の拡大

・洪水が長引き、6工業団地以外の地域にも罹災が拡大。

損傷率のアップ

・排水スピードが想定より遅かった(吹き曝し期間が長かった)ことから、機械装置の錆(酸化)が当初想定以上に進行。  
・泥水の水質(汚染度合い)が悪く、想定以上に機械装置にダメージ。

	12月末	
		支払率
支払保険金(億円)	368	16%

追加資料5 法人税率引下げ等の影響(通期)

2011年度当期純利益には約820億円のマイナス影響

- 2012年度より実施される税制改正により、法人税率が2段階で引き下げられることとなった。
- 将来的な税負担の軽減を見込んで計上していた繰延税金資産が、税率引き下げに伴い減少するため、取崩しを行う。(当期純利益への影響 約△560億円)
- この他、あいおいニッセイ同和損保において、市場環境を踏まえて有価証券に係る一時差異の解消スケジュールを見直し、評価性引当を行う。(当期純利益への影響 約△260億円)

<各指標への影響額>

(億円)

	MS&AD ホールディングス (連結)	三井住友海上 (単体)	あいおいニッセイ 同和損保 (単体)	三井住友海上 あいおい生命 (単体)	三井住友海上 プライマリー生命 (単体)	その他子会社 (単体) 及び連結調整
経常利益*	160	72	88	—	—	—
当期純利益	△820	△320	△500	△25	△15	40
その他有価証券 評価差額金等	120	270	10	30	—	△190
純資産	△700	△50	△490	5	△15	△150

\* 自賠責保険、地震保険の有税の責任準備金に係る繰延税金資産については、繰延税金資産の減額に伴い同額の責任準備金戻入を計上するため、経常利益にプラスの影響が発生する。(当期純利益への影響はない)

国内株式市場の下落を主因として評価損の総額が拡大

2011年度第3四半期実績

(億円)

	MS&AD ホールディングス (連結)	三井住友海上 (単体)	あいおいニッセイ 同和損保 (単体)	その他子会社 (単体)	連結調整 (パーチェス差額 合計)
有価証券評価損	750	157	224	26	341
うち株式	660	121	193	0	344

2011年度 通期業績予想\*における有価証券評価損の見込額

(億円)

	MS&AD ホールディングス (連結)	三井住友海上 (単体)	あいおいニッセイ 同和損保 (単体)	その他子会社 (単体)	連結調整 (パーチェス差額 合計)
有価証券評価損	585	170	190	20	205

\*日経平均株価の想定：1月末と同水準

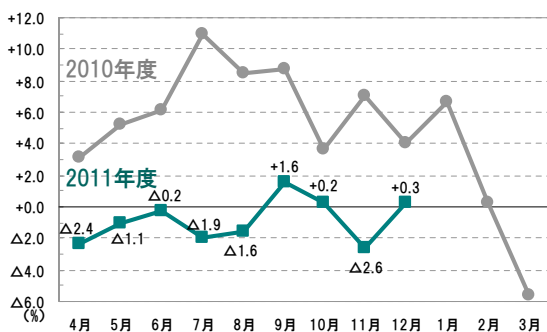
- 経営統合の際、企業結合の会計処理として「パーチェス法」を適用し、旧あいおい損保、旧ニッセイ同和損保、旧あいおい生命の保有資産について、2010年3月末(日経平均株価:11,089円)の時価を連結上の簿価とした。
- 2011年度第3四半期末時点の国内株式市場(日経平均株価:8,455円)は、2010年3月末から△24%下落しており、減損処理の基準(△30%)に接近したことで、評価損が拡大した。
- なお、パーチェス法適用により生じた、連結上の有価証券評価損計上額と各事業会社の計上額の合計との差(いわゆるパーチェス差額)を連結調整としている。

追加資料7 自動車保険の収支改善状況

三井住友海上

事故件数の推移(1日あたり、対前年同月増減)

※特約事故を除く主要5損保種目計(除く自然災害)で比較。



保険料・保険金・EI損害率

<国内・営業ベース>	契約台数	保険料単価	保険料
保険料増減要因	+0.5%	+2.2%	+2.8%
<国内>	対人	対物	車両 (除く自然災害)
保険金単価増減	△6.4%	+1.2%	+0.4%
<除く損調費>	2009.12	2010.12	2011.12
EI損害率	62.7%	66.6%	63.9%

\*保険料増減要因の諸数値は営業成績ベース(4-12月)の対前年同期比

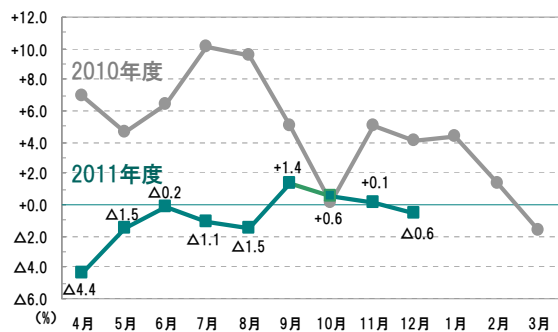
\*保険金単価の増減は、MSIについては12月未年度累計の前年同期比、ADIについては2011年12月末過去1年の前年同期比を表示

\*EI損害率は損害調査費を除くベース。期間は各年度の4-12月(あいおいニッセイ同和損保の2010年度以前の数値はあいおい損保とニッセイ同和損保の単純合算値を使用)

あいおいニッセイ同和損保

事故件数の推移(1日あたり、対前年同月増減)

※2011年度の比較より自然災害の件数を除く。



保険料・保険金・EI損害率

<国内・営業ベース>	契約台数	保険料単価	保険料
保険料増減要因	△1.5%	+1.2%	△0.3%
<国内>	対人	対物	車両 (除く自然災害)
保険金単価	△9.3%	+1.6%	△0.4%
<除く損調費>	2009.12	2010.12	2011.12
EI損害率	61.0%	65.4%	62.3%

立ちどまらない保険。

MS&AD

INSURANCE GROUP

### 予想および見通しに関する注意事項

この資料に記載されている内容のうち、MS&ADホールディングスならびにグループ各社の将来に関する計画や戦略、業績に関する予想や見通しは、現時点で把握できる情報から得られた当社グループの判断に基づいています。実際の業績は、さまざまな要因によりこれらの業績見通しと異なる結果になり得ることをご承知おき下さいますようお願いいたします。実際の業績に影響を及ぼし得る要因としては、(1)事業を取り巻く経済動向、(2)保険業界における競争激化、(3)為替レートの変動、(4)税制など諸制度の変更、などがあります。